

PTA講演会「いのちのお話」(11/25)

PTA教養委員会の主催で、MY助産院の助産師 高島麻季先生に「いのちのお話」という演題で講演をしていただきました。高島先生は、総合病院での病院勤務を経て助産院を開業され、これまでに延べ1万人以上の母親のケアや相談に携わってこられました。4年生以上の児童・30名弱の保護者が参加しました。命の誕生に立ち会う助産師として、いのちの尊さや大切さ(自分を大切にすること)等について、赤ちゃんの人形や出産に関わる写真を使われて分かりやすくお話していただきました。児童は、講演を通して命の大切さについて学ぶことができました。

講演内容の概要と児童・保護者の感想等をまとめましたのでご覧ください。

<令和4年度八重東小学校PTA講演会「いのちのお話」について>



本事業は、演題「いのちのお話」として、PTA 教養委員会が主催し、MY 助産院・助産師高島麻季先生にお話しいただいた。小学校4年生から6年生の児童55名、教職員・保護者37名の合計92名の参加者であった。

講師の高島麻季先生は助産院を開業され、これまでに延べ1万人もの産後の育児・育児支援や母親の相談を受けてこられた。その経験を元に小学生にも分かる言葉で優しく命の大切さについて語りかけてくださった。「(ピンクのカードを一人一人に配って) このカードは実はお母さんの子宮と同じ大きさで形なんだよ。(カードの中に開けた小さな穴を見つけさせて) 赤ちゃんはこんなに小さなたまごからお母さんから栄養をもらって大きくなって生まれてくるんだよ。」と、カードや人形を用いて、実感させながら話を進めてくださった。その後、出産時の写真を見せながら、「みんなで応援されながら産まれてきたんだよ。」「あなたたちが世界にただ一つの命、奇跡なんだよ。」と命の大切さにつながる話をしてくださった。そして、講演の最後には、「お家の人と一緒に自分のいいところを5つ考えてみてください。」と親子のつながりを考えるきっかけをくださった。



児童の感想文では、「私たちは、助産師さんやお父さん、お母さんのおかげで生きているんだと思います、感謝の気持ちでいっぱいになりました。」と、命の大切さのみならず、助産師という仕事の尊さや周りの方々への感謝を感じていた。また、保護者からは「子どもが元気に産まれてきてほしいとただ願っていたことを思い出しました。」「命の大切さ、出産

することの尊さを今一度考えさせられました。

いつも怒ってばかりだけど、この子達に出会えたのは本当に奇跡なんだなと思いました。」と親子のつながりを再認識できたことについての感想が寄せられた。親子で命について考える非常に有意義な講演会となった。

